

## 平成29年度 綾部市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成29年11月1日(水)  
開会 10時00分 閉会 11時50分

2 会 場 綾部市役所 第1委員会室

3 出席者 綾部市長 山崎 善也  
綾部市教育委員会  
教育長 足立 雅和  
委 員 小南 直美  
委 員 波多野 芳雄  
委 員 樋口 高夫

(事務局関係)

福祉保健部長	大石 浩明
企画財政部長	高橋 学
企画政策課長	岩本 正信
教育部長	岡垣 美樹
教育部参与	家元 優
教育部参事	小林 治
学校教育課長	村上 哲也
社会教育課長	塩見 勲生
文化・スポーツ推進課長	小林 敏和
学校教育課課長補佐	森本 重則
学校教育課課長補佐	斉藤 さおり
学校教育課学務指導担当長	村上 寛

4 協議事項 (1) 学校給食、食育の推進について  
(2) 小学校英語教育の推進について

5 議事の概要

○ 開 会

○ 綾部市長挨拶

先週は台風21号22号が連続して襲来し、市内において被害が出たところですが、

学校現場においても避難所の開設等々お世話になり、この場をお借りしてお礼申し上げます。

そのような中、本日は平成29年度の総合教育会議に出席いただきありがとうございました。教育委員の皆様には、平素より綾部市の将来を担う人材の育成に多大なるご尽力いただいておりますこと感謝申し上げます。

聞くところでは、学校では落ち着いた状況で、学業に専念できる環境づくりが進んでいると承っております。そのような中で学力も京都府内においてトップクラスに位置付けられる状況も聞いております。

さて、ご承知のとおり、平成27年度に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、市長部局と教育委員会とが連携して教育行政を進めていくための協議の場「総合教育会議」が開催されることになりました。

本市では、平成27年度に総合教育会議を3回開催し、教育委員の皆様方からご意見をいただき綾部市教育大綱を策定いたしました。この大綱の具現化に向け、市全体として充実した教育行政の推進を図っていかねばならないと考えております。

綾部市ではここ数年、施設一体型小中一貫校の建設、耐震工事、普通教室への空調機器導入など施設関係の整備を進めてきました。このような中で、来年度から綾部中学校、八田中学校、八田幼稚園で自校調理方式による完全学校給食を開始するための整備を進めています。これで市内全ての小学校、中学校で自校調理方式による完全給食を提供することになります。自校調理方式は京都府内でも綾部市だけの取り組みで、特色のある学校給食が推進できると考えております。

また、国では今年3月に新学習指導要領が告知され、小学校では平成32年度から中学校では平成33年度から実施されることになりました。

本市では既に特色を持たせて取り組んでおります「英語教育・国際理解教育」が、小学校5・6年生で教科としての「英語科」、3・4年生では外国語活動が実施されることになりました。綾部市ではイングリッシュキャンプや英語サミット、京都産業大学との連携によるイングリッシュキャンパスなど特色ある事業を実施しているところです。

これらの状況を踏まえ、本日のテーマについては「食育」と「英語教育」とについて、学校現場から2名の先生方に実践発表をしていただき、教育委員の皆様方から忌憚のないご意見やアドバイスをいただきたいと思っております。

あわせて教育委員の皆さんは、学校を通じて、子どものある家庭にいちばん近いところで接していただいているかと思っております。子育てをされている家庭には、少子化対策や貧困対策といった行政全体の課題が垣間見えるということもあるかと思っておりますので、その点についても、ご提言なりご意見をいただきたいと思っております。部局を超えた観点での教育委員会と市長部局とが連携できるようよろしく申し上げます。

限られた時間ですが、本会が綾部市の教育行政の、さらなる充実・発展に寄与する

ことを期待いたしまして、開会に際してのご挨拶とさせていただきます。  
本日はよろしく願いいたします。

○ 協議事項

(1) 学校給食、食育の推進について

(実践発表：綾部市立吉美小学校 井上智絵栄養教諭)

<議長：綾部市長>

ただいまの実践発表につきまして、ご意見をいただきたいと思ひます。

<小南委員>

私の経験から、お弁当では子どもの好物や似たような内容のものになってしまうし冷たいお弁当でした。子どもも給食がいいなと申していましたし、親としても温かい物を食べさせたいと思ひていました。

また、栄養バランスに偏りのある家庭もあります。給食であれば、手間はかかるけれどもたくさんの野菜や肉、魚などをバランス良く、また温かい汁物も食べることができます。1日の内の1食ではありますが、命をつなぐ大切な1食だと思ひます。来年度から綾部中学校と八田中学校で給食が始まるのはとてもありがたいことだと思ひます。自校調理方式で温かい給食が食べられるということは、親にとって大変嬉しいことです。

<樋口委員>

食育は子どもの発達段階に応じた目的を持った食育となっているのですか。栄養教諭が配置されている学校とそうでない学校がありますが、どの学校でも教えることができる系統だった内容となっているのですか。

<井上教諭>

低学年では好き嫌いをなくしてなんでも食べること、中学年では食事のマナーをしっかりと身に付けること、高学年ではバランスよく食べることと自分で献立をたてることのできる力をつけることを目的に系統だった食育を行っています。

<市長>

各教科には課程がありますが、食育も体系的な教科書があつてステップアップしていくことになっているのですか。それとも栄養教諭が自治体や学校、地域の中で、手作りで自由裁量でできるものなのですか。

<井上教諭>

どちらかというと、教科のように決まっているものではなくて、抽象的な大きなくりになっています。

<市長>

地域性であつたり、先生の創意工夫であつたりと裁量の余地がかなりあるという

理解でよろしいですか。

<井上教諭>

はい。

<市長>

食育は食べるというところを切り口にして、社会のシステムを理解したり、主体的に生きる力をつけたりという大きな目的を持ったものですか。

<井上教諭>

家庭科の教科だけではなく、国語や算数、社会など様々な教科に関連付けるよう言われています。

<樋口委員>

地域の食育は保健推進課が食生活改善推進員を中心に行っています。子どもだけでなく大人も食育が大切だと言われていますが、行政で取り組む食育は目標数値もなく到達度が図れないこともあり、なかなか難しいところがあります。

<市長>

日々、学校現場において、感じておられる課題や問題点はありませんか。

<井上教諭>

噛む力が弱い子が増えてきていると感じます。噛む力が弱い子は踏ん張る力が弱いです。噛む力が必要な野菜を家であまり食べていなかったり、食事のバランスがよくなかったりして、いろんなところに影響が出てきます。

<波多野委員>

井上先生の報告にあったように「周りの人と協働して生きていく子どもたちを育てる」という目的が、食育も教科の教育も一緒であることやすべての領域、教科で同じ方向を向いて子どもたちの教育を行っていることがよく分かり大変嬉しい思いです。

また、食育や学校給食を通して、子どもたちが食べるだけでなく健康体を理解し、自分で作っていけるという力をつけさせてほしいと思います。このことは綾部市の小中一貫教育あい紡ぎプランのなかにも参考例として掲載していますが、それには家庭との連携がとても大切で、家庭でも将来子どもたちが自分で作って食べられる子どもを育てることがすごく大事なことだと考えます。家庭も同じ考え方を持てるような連携を考えてもらえたらありがたいと感じました。

<市長>

食物アレルギーは増えているのですか。また、なぜ増えているのか一般的にはどのように説明されているのですか。

<井上教諭>

よく言われるのは「食の欧米化」です。食べ物が変わってきてアレルギーが増えたと言われます。また、さまざまな要因があって一概には言えませんが、最近では、

アレルギーは小さいころから口から食べているものは、体がアレルギーを治そうとするのですが、アレルギーになるかもしれないから食べないでおこうとすると逆にアレルギーを発症しやすいと言われていました。

<教育長>

樋口委員、以前勤務されていた病院ではアレルギーに対していかがでしたか。

<樋口委員>

当時、小児科の医師に聞いたところでは、アレルギーのお子さんは多く、年齢に応じて徐々に耐性をつけていくようなケースもあると医師は言っていました。しかし、絶対に受け付けない体質の子もありますし、一人ひとり体質も原因も違いますし、命にかかわることなので十分な医師との連携が必要です。

<教育長>

綾部市でも自校給食のメリットを生かしてできるだけのアレルギー対応をしたいのですが、全国的にはアレルギー対応をすればするほど事故につながっている状況です。命にかかわることであり、配慮したことが反ってマイナスになるという状況が各市の悩みの種になっています。

現在、綾部市では学校長、栄養教諭、養護教諭でアレルギー対応について協議をすすめているところです。

<市長>

この場でなくて結構ですので、そういう事故が起きた時にその責任問題は、法的にまたは判例としてどのようなものなのか教えてください。

## (2) 小学校英語教育の推進について

(実践発表：綾部市立豊里小学校 澤田太志教諭)

<市長>

この件に関しまして、ご意見をお願いします。

<樋口委員>

中学校の英語の先生がALTの代わりに授業をする取り組みは、綾部市内全校で行われているのですか。

<澤田教諭>

本校は小中連携の加配教員として中学校の英語の先生に来ていただいているのでできますが、他校ではそうではありませんので取り組みとしては本校だけとなります。

<教育長>

ほかに東綾小・中一貫校と上林小・中一貫校は、施設型小中一貫校ですのできています。他校も取り組みはしていますが、時間数が少ないという状況です。

<参事>

綾部市では小中連携加配の教員を4人配置しています。各ブロックで課題がある教科において中学校の教員が小学校に行って授業をしています。

<小南委員>

さきほどの食育の発表の中で、時代がどんどん変化していくので、前向きに課題を見つけて対応していく子を育てたいという話がありましたが、この英語の現場もめまぐるしく変わるのに、澤田先生のお話を聞いていたら、現場はすごく大変なのでしょうけれども、人権教育と組み合わせるなど子どもを育てるためのその変化を使おうという思いがひしひしと伝わってきて、こんな風に英語の変化をとらえて取り組んでおられる校長先生も澤田先生も素晴らしいなと感動しながら聞いていました。その姿勢を全市に広げるのはとても大変だと思うのですが、子どもたちのために頑張してほしいと思います。

<教育長>

日本全国で最先端の授業と言えばタブレット等のICTを使用したものと言われていますが、それらの機器を使いこなすのに先生方は研修しなければならぬし、せっかく購入しても宝の持ち腐れになるのではないかという危惧もあります。学校に電子機器を入れる場合には有効に使ってほしいという思いがある中で、澤田先生として、英語教育の観点もそうですが、最低限必要だと思われる電子機器は何ですか。

<澤田教諭>

タブレットは管理の面で難しいと考えます。各教室に大型モニターとパソコン、または外国語活動をする部屋に環境が整っていれば、担任の先生も授業がしやすいと思います。

<波多野委員>

綾部市の小学校で外国語ルームの設置状況はわかりますか。余裕教室がどれくらいあるかにもよりますが、各教室に機器を置くのは大変なので、そういう部屋をできるだけ作る方向で勉強しやすい環境を整えることも大事なかなと思います。

発表の中でコミュニケーションの力を育てていかないといけないというのは大事なことだと思います。会話をするにはいろんな言語がありますが、土台となるコミュニケーションができる力は各教科で育てていくよう、是非進めていただきたいです。

豊里小学校は率先して研究指定を受けられて意欲的に取り組んでいただいています。市内の学校が豊里小学校の研究をアシストをする研究協力校的な位置づけになって、全部の学校が一緒に進んでいくことになればいいなと思います。

また、これまでの授業時間数が減らずにプラス15時間、プラス35時間にな

るのは、その時間をひねり出すのは本当に大変だろうなと思います。

<市長>

今、波多野委員が言われたように豊里小学校のモデルを他校に広げるとか外国語活動の授業が15時間、35時間増えるというのは、何かを削って行うのか、そのあたりのことについて説明をお願いします。

<澤田教諭>

豊里小学校では校内で検討した結果、水曜日に学力の補的に使っている時間の22時間を使用し、学力補充の時間は毎日の帯の時間の15分ずつを充実させていくということにしています。それ以外は、月曜日に委員会活動がありますが、それがありませんのでその時間を使うと本年度実績では35時間が確保できます。

<市長>

現場の先生にとっては、これまで経験のない英語の授業を行うのはかなりの負担感があることと思います。小学校の英語教育をシステムとして今後持続的に行うに当たって、指導者は既存の担任を持つ先生に対してトレーナーズトレーニングをして体制を整えていくのか、中学校のように専科の先生を小学校にも導入して、それに至るまでの過渡期として担任の先生を鍛えようとしているのか、専科プラスALTのように英語を専門としている人を増やして充実させて英語教育をしようとしているのか、文部科学省はどのように考えているのですか。私たちの原体験を踏まえて、発音はネイティブに近い発音や日本語の母音にない音の発音について、慣れていない先生に教えられる子どもたちはたまったものではないなと思います。文部科学省の目指すゴールとプロセスの過渡期の対応について何か聞いておられますか。

<森本補佐>

専科教員の配置も検討材料ではありますが、具体的なことにはなっていません。既存のシステムで英語教育を行っていくときに、文部科学省が用意しているのがデジタル教材です。デジタル教材で音源を確保して授業をすすめていくとなっています。

<教育長>

今は、全てが並列して進んでいるという感じです。市町村においてALTを増やすことや文部科学省として専科の教員の増員が言われていますが、予算的なこともありますので、それを現場は待ってられません。ですから、今の教員のスキルアップをしていかざるをえないです。また、今後は教員になる人は英語も勉強して配置されてきます。

<市長>

食育も英語教育も新しい分野ですので、日々、試行錯誤の繰り返しだと思います。

す。そこでの先生方のご苦勞やストレスも大変なものがあると思いますけれども、時代が変わっていく中で、学校現場で教えていく内容も当然のことながら変わっていかねばならないですし、その対象となるのがこれから生きていく子どもたちです。自分で課題を見つけて、自分で生きていく力をつけていくことが大切になります。その過程での先生方のご苦勞が子どもたちの血となり肉となっていくし、その姿を子どもたちはよく見ていて感じとってくれているのではないかと思います。ぜひ、その心意気で現場の先生方には頑張ってくださいと思います。我々、予算編成部局としましては、現場のニーズや声をできるだけ実現できるように、予算に反映させていきたいと思います。それがこの総合教育会議の一つの大きな趣旨だと思います。本日の行政関係の出席者の方もそれぞれの担当に落とし込んで、来年度の予算編成に臨んでいただければと思います。

それでは長時間にわたり貴重なご意見等いただきありがとうございました。

以上で本日の協議事項につきましては終了いたします。

○ 閉 会

○ 教育長挨拶

私が教育長に就任してから6年が経過しますが、その間、上林小中一貫校と東綾小中一貫校の建設、八田幼稚園の整備、普通教室のエアコン設置、来年度からの綾部中学校、八田中学校、八田幼稚園での完全給食の実施、市民センターの建設等のハード面、またソフト面においてもさまざまなご支援をいただいています。財政状況の厳しい綾部市において、これだけのことが計画どおりに進んできたというのは奇跡だと思っています。

これは山崎市長が学校現場へ市長のふるさと講座をはじめ足を運んでいただき、綾部市の教育の現状を知っていただいて、予算に反映していただいているおかげだと思っています。

さて、今回は学校給食と英語教育について実践発表を交えた協議をしていただきました。学校給食については最近大変騒がしくなっております。特に神奈川県大磯町のデリバリー方式の給食に問題があり、子どもたちが残してしまう状況が紹介される中で、スクールランチに対する風当たりが強くなっています。綾部市の場合、自校調理方式にこだわってこれまで給食を実施してきました。一時期は時代遅れのような言い方をされることもありましたが、今は一周遅れのトップランナーになったような気がします。綾部市で連綿と受け継がれてきた自校給食による学校給食の良さについて、来年度、綾部中学校、八田中学校で完全給食を実施することを契機にリーフレットを作って、保護者や市民の方にお知らせしたいと考えています。

また、英語教育については、平成32年度からの小学校での英語教育の取り



組みを推進するに当たって、2つのことを考えています。豊里小学校がパイロット校となって取り組みを推進してほしい、ただし、英語の教員免許を持っていない先生が中心となって、自分たちが行う英語教育をどのようにしたらいいのか研究してほしいとお願いしています。すべての先生がT1になるにはどうしたらよいか、授業時間数をどのように確保したらよいかということを教育委員会へ提案いただきたいと思います。また、今年度はじめて本市独自の事業として英語教育推進リーダーの研修を行いました。来年度以降も先生自身が楽しんで受講できる研修を継続して行っていきたいと思っています。

本日は、短時間ではありましたが、非常に中身の濃い論議になったのではないかと思います。以上を持ちまして閉会の挨拶とさせていただきます。